

### 肝疾患の評価ポイント～症例を通して～

◎松本 康恵<sup>1)</sup>

佐賀大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

腹部超音波検査を習得する際、最初に肝臓の描出に挑むことが多いのではないのでしょうか。しかし肝臓は腹部で最大の臓器であり多方向からの観察が必須です。解剖学の知識を基にそれを見慣れない超音波画像として変換する必要がある、習得の取っ掛かりとしては難しい臓器だと考えます。私も初心者の時は肝臓を的確に描出できているのかどうかわからず、何度も悩みながら検査を繰り返してきました。知識不足や経験不足による見落としや読み違いを起こし、自信喪失することも度々ありました。その都度、知識を蓄え経験を積み重ねることを繰り返し、その大切さを学びました。

私が今まで経験してきた見落としや読み違いの症例は、経験や知識不足、そして思い込みにより起こすことが多かったように思います。検査を進める中で自分の中で思い浮かんだ症例に引きずられ、それと少し一致しない所見があっても、その所見を軽視し、十分な評価ができないこともありました。しかし、経験や知識を積み重ねることにより、総合的に判断できているかを冷静に評価できるようになります。この時に併せて必要なことは、機器の設定調整や病変以外の情報に目を向け多方面から評価することです。

知識や経験の獲得には長い時間を要し、初心の時はオーダーを見ただけで怯んでしまうような症例もありますが、そのような症例こそ積極的に勇気をもって取り組んでいただきたいと考えます。高い技術と知識を以てしても見落としや読み違いをなくすことは困難ですが、できる限りなくす努力をすることが重要と考えます。

今回当院で肝疾患を評価するにあたり苦慮した症例について、評価のポイントを中心に提示していきたいと思います。今回のシンポジウムを通して、日々の診療の一助となることを願います。